<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>タイトル</td>
<td>コミンテルン第五回大会における「民族・東方問題に関する決議草案」 M・N・ロイの反論を中心として</td>
</tr>
<tr>
<td>著者</td>
<td>松元 幸子</td>
</tr>
<tr>
<td>頃</td>
<td>一橋論叢 68(1): 48-64</td>
</tr>
<tr>
<td>発行日</td>
<td>1972-07-01</td>
</tr>
<tr>
<td>タイプ</td>
<td>部門別論文</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>URL</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/2120">http://doi.org/10.15057/2120</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
コメジテルンは、その第四回大会（一九二〇年）において、民族・東方問題にかんする決議案を取り扱った。この決議案は、ロシ

松 元 幸 子
コミンテルン第五回大会における「民族・東方問題にかんする決議草案」

その下に一九四一年一月に成功した中国の共産党などを
重要な役割として、民族地および半民族地諸国は
帝・反封建闘争におけるブルジョア民主主義者との
一時の同盟の可能性を含めた反帝統一戦線の結成を一九
二〇年以降のテーゼとして定着させよ
うとした点である。もう一つは、ロシが、コミンテルン
第二回大会において、レーニンの提唱した「民族・民族
地問題にかんするテーゼ原案」をめぐってレーニンと論
争に至った点である。ロシアの反帝統一戦線戦術の開
催されたこの第五回大会での、ロシの反帝統一戦線戦
術にたどる強い批判の意見を示すことは周知の事実である
が、レーニン死後には

私の以下の論述において、コミンテルンとロシとの反
帝統一戦線戦術をめぐるこの対立点に光をあて、その
意味を考えたい。

マイルスキー報告

A・ト・レズニコフは、その最近の論稿の中で、「民族
・東方問題にかんする決議草案」（以下「決議草案」と
記す）の諸命題を紹介している。この「決議草案」は、コ
ミンテルン執行委員会によって作成され、第五回大会に
提出されたもので、コミンテルンの重要なテーゼの一つ
として採択されるはずのものであった。

その内容をつぎの要約しておこう。

それは、第一に、民族地および半民族地諸国のである
ブルジョア民主主義者、官僚主義、軍国主義などと
のうちの革命的分子を含むのが反帝統一戦線に結集され
また民族地および半民族地諸国を民族的・革命的・反帝勢
力（これには労働者、農民、ブルジョアジーと知識階級
の協力が強化するようにすべきである。第二に、この反
帝統一戦線における、共産党が一方でブルジョアジーに
ただす日和見主義に陥ることを避けるために、また他方で民族解放運動から孤立することを避けるために、
共産党は労働者の日常の要求のために闘い、未来に
とらえ、共産主義組織を民族解放運動全体の運動の中に入
してしまう危険性にたいして闘う必要がある。またそれ
とともに、共産党が革命的民族ブルジョアジーを支持す
第四の命題としてまとめた内容に留意しておく必要がある。これは、マヌイルスキーがその報告の中で述べている「革命的統一戦線をとうたたる具体的形態」の関連が示されているからである。

この問題をまったく無視したことはおそらくいうこ、 molecular 第四回会議における「民族・東方問題にかんする決議草案」を、そこである。

さて、マヌイルスキーは、この民族・東方問題にかんする決議草案の内容について報告をなしている。

第一は、民族問題を提起した第二次会議において、はじめてプロレタリアートと押下された民族および植民地と総問題の間の革命的統一戦線の思想が提起された。しかしこれらの革命的統一戦線を樹立するための一般的な理論を導くが足りなかった。国際経験不足の差があり、現状に於て、この問題にかんしていくつかの一般的な結論を導くことが、この問題を正しく理解するための重要なことである。

第二は、第二回会議以降の期間において、政治的・経済的・社会的問題を含む、戦争圏における戦略的に重要となる民族問題を解決するための一般的な結論を導くために、ソヴェト社会主義共和国連邦が樹立されたこと。それと、多民族構成の農業国において、プロレタリアートの独裁の下における民族問題の解決の一つの経験として、ソヴェト社会主義共和国連邦の内容として、四つのグループ分けをおこなっている。

その第一のグループは、オランダ領インドおよび中国の民族問題に最もみられるように、反帝闘争における一般的な結論を導くために、労働者のための統一戦線を樹立するための一般的な結論を導くに足りない。
「最近、多くの労働者大衆の間で、反帝闘争において中国における国民党の結成が一層急速化している。しかしそれも、われわれは、まだ、
中国共産党の最近の中央委員会総会において、国民党内部の各種の政治的傾向を考慮に入れて、
中国共産党の中央委員会総会における一層の急速化を懸念している。」

このように、ジャパニーズ・イスラム・および中国共産党を始めとする共産主義者全てが非常に懸念している。
ここでマヌイルスキーが「中國国民党の結成」として開催された中国国民党一全大会を指していると考えられる。つまり、中国における正式な国共合作である。このような国共合作の方針は「共産主義中国革命を成功させる」という目標を掲げていたものである。また、中国における正式な国共合作の要件は、統一戦線によって元々の関係者と、民族革命的組織（党）および知識階級の革命的分子を含むことである。

この二月、マヌイルスキーはロイの反論に対する提唱にたいして、マヌイルスキー報告書の初の点にたいして、さらに民族・植民地問題にかんする補論を述べている。ロイはツキのようなく反駁している。

ロイはツキのように反駁している。まず最初に、私は、執行委員会報告書の第十三の論文を民族運動指導の証左として指摘している点にたいして、さらにマヌイルスキー報告書の初の点にたいして、さらに民族・植民地問題にかんする補論を述べている。
一橋論集 第六十八巻 第一号 (54)

執行委員会は民族解放運動をより直接的な接触を発展させてなければならない。たとえば、われわれは常にそれらの接觸を成功させなければならぬ。ならぬよう、われわれにそれらの接觸を成功させなければならないが、われわれはこれによって民族解放運動の重要性を強調し、われわれにその方針を示している。すなわち、われわれはできるかぎり農民運動に革命的性格を与えよう努力しなければならない。われわれは、農民あるべきあるべきの被圧迫階級をソビエトに組織し、これをどのようにしてしての特別な任務、かれらの民族内部のロシアのものを、将来のプロレタリア政党の諸分を結集し、教育し、かわらの特別な任務、かれらのロシア民主主義の民族があらゆる条件を満たすことができるか、われわれは決して進歩しないし、これまでの失敗はこの理論的混乱に帰すべきである。
コミュニテル第五回大会における「民族・東方問題にかんする決議草案」

ルジア民族主義の破綻は、解放のための闘争のあらゆる重荷を労働者と農民の肩に転嫁している。したがって、今後の反帝闘争は、労働者階級の党の指導のもとでのみうまく実現できる。

つまり、ロイの反論は、コミュニテルは担当と「東方の民族解放運動と直接的な接触をもつ」とするのでないのだろうか。大衆は、よりも厳密に労働者階級の党が結びついているような意味で、ロイの主張では、このようなコミュニテルの民族解放運動との接触というような曖昧な定式は、階級運動の重要性とソヴェトの樹立を提起している第五回大会テセーに背反するものである。

しかし、ロイの見解では、一方ではこのような「曖昧な定式」のも、労働者階級の党が結びついているようなコミュニテルの民族解放運動との接触というような曖昧な定式は、階級運動の重要性とソヴェトの樹立を提起している第五回大会テセーに背反するものである。

ロシア帝国主義との同盟（それによって解放闘争のあらゆる重荷は労働者・農民階級の両側に転嫁させられた）の帝国内の共産主義者の同盟（それによって解放闘争のあらゆる重荷は労働者・農民階級の両側に転嫁させられた）の帝国内の共産主義者の同盟（それによって解放闘争のあらゆる重荷は労働者・農民階級の両側に転嫁させられた）の帝国内の共産主義者の同盟（それによって解放闘争のあらゆる重荷は労働者・農民階級の両側に転嫁させられた）
反対する統一戦線という形態は死んでいる。農民の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒンドゥーの都市の階級闘争では、インドの資本家に対抗するインドの都市の労働者の闘争は、インドの地主にたいする抵抗されている。この場合、労働者の闘争と平行し続けられている。ヒнд
コミュニケーション第五回大会における「民族・東方問題にかんする決議草案」について、初めての段階をとることができ、一定の発展段階を経た共産主義の理論にうつることができる。つまり、この非資本主義の発展のための命題が、ロシアの論理の中で若千混乱して使用されているがこそ、この段階をとることができると、この非資本主義の発展のための命題が、ロシアの論理の中で若千混乱して使用されているがこそ、この段階をとることができると、この非資本主義の発展のための命題が、ロシアの論理の中で若千混乱して使用されているがこそ、この段階をとことができると、この非資本主義の発展のための命題が、ロシアの論理の中で若千混乱して使用されているがこそ、
共産主義組織が未だ確立されていないという実情を
考慮に入れている。

これにたえることでのロイの反論は、国際情勢はと
もなく、マヌエル・スキにたいする反論においてもみられるよ
うに、インド国内におけるかの人情勢認識から出発してい
る。つまり、さきに点するように、ロイは、民族解
放運動における統一戦線は階級闘争によって分裂されてい
ると主張しているのであるが、その論拠は、インドにお
いて一九二〇年には統一戦線を可能にしていった情勢が一
九二〇年以降、本大会に至るまでロイの著作をみ
るかぎり、この情勢の変化"という決定手とする主要な事
件が一九三三年とされる。ロイは、たとえば、一九三七年六月
二日付のインプレード誌に、"インドにおける政治
情勢と試論の論文を載せ、この中で"民主階級の利益
が第義的に考慮されたパルドリー決議の全条（一）は
これを掲げ、"デルジャ指導の衰切りによって民
族運動の"段階は終った"と告げている。
（59） コミュニテーション第五回大会における「民族・東方問題にかんする決議草案」

「これが運動を挫折させた暗礁であった。これを「非暴力」の真の意味であった。」

たしかに、「ロイは、このようなパルドール・ルイの指導を、ある種の障害や、民族運動の停滞を、今度は、パルドール・ルイが指導した国民会議案の一連の運動の象徴として、ごく自然な一連の事実であると考えることになる。しかし、ロイは、このロイの「非暴力」の真の意味を、このようにパルドール・ルイの指導による、東方問題にかんする決議草案の一部である。ロイの本会議に於ける見解の主要な根拠が、一九二四年の非暴力の観点から考えれば、ロイが本会議に於いて、それを成功に、「非暴力の観点から考えれば、ロイが本会議に於いて、それを成功に、」という、主要な論点となっていることから見れば、大意で、運動が、反動的であり、指揮者であるとして触れを革命的であると信じたのにたいして、ロイは、「反動的である」と考えていた。ここに、ロイによって展開されていたのである。つまり、そのロイによって展開されていたのである。これこそ、非暴力の真の意味である。 }

「ロイは、このロイの「非暴力」の真の意味を、このようにパルドール・ルイの指導による、東方問題にかんする決議草案の一部である。ロイの本会議に於ける見解の主要な根拠が、一九二四年の非暴力の観点から考えれば、ロイが本会議に於いて、それを成功に、「非暴力の観点から考えれば、ロイが本会議に於いて、それを成功に、」という、主要な論点となっていることから見れば、大意で、運動が、反動的であり、指揮者であるとして触れを革命的であると信じたのにたいして、ロイは、「反動的である」と考えていた。ここに、ロイによって展開されていたのである。これこそ、非暴力の真の意味である。」
民族精神の発展を助成することを意味するであろうが、

民族の精神の発展を助成することを意味するであろうが、

民族の精神の発展を助成することを意味するであろうが、

民族の精神の発展を助成することを意味するであろうが、

民族の精神の発展を助成することを意味するであろうが、

民族の精神の発展を助成することを意味するであろうが、

民族の精神の発展を助成することを意味するであろうが、

民族の精神の発展を助成することを意味するであろうが、

民族の精神の発展を助成することを意味するであろうが、

民族の精神の発展を助成することを意味するであろうが、

民族の精神の発展を助成することを意味するであろうが、
「なぜ君が在団大使を務めるのか。」
「なぜ君が在団大使を務めるのか。」
「なぜ君が在団大使を務めるのか。」
「なぜ君が在団大使を務めるのか。」
「なぜ君が在団大使を務めるのか。」
一橋論叢 第六十八巻 第一号 (62)

使いこぼした程度の決意をもっているかによって、かれらにたいする支持の限界と条件を決めることがある。もしこの点で試るのは、共産主義者、一方ではアフリカにたいする日和見主義に陥り、他方では民族解放運動から孤立するであろうと「決議案」は指摘しているのである。

マヌールスキは、本大会の最終日（七月八日、第二会議、『民族問題にかんする結論』の中で、この点にかんして、「真実は、社会運動と民族運動との正確な均衡を見出しなければならない。そこの中で、ロシア＝ルーマンのニヒリズムを反映している」として、ロシア＝ルーマンが目的としたことは、このような「社会運動と民族運動との正確な均衡を前提とした、革命的統一戦線をうたる具体的形態を模索しようとしたことであって、これに、中国における共通作の成功を支える」という結論を出していることがある。一方、この「決議案」は採択されていないが、その結果、本大会において、『民族問題にかんする最終的テセすための委員会』に委されたのである。

ただし、われわれが、コミュニンルンの本大会に提出した「決議案」において、それにつながる「反帝統一戦線の戦略における正しい基準」あるいは「正確な均衡」は、実際には、「共産主義の法規を通して」「正しい」というものであることも考えざるをえない。

この「決議案」は、その後、コミュニンルン執行委員会拡大総会（九二五年三月）で承認され、インドにおける民族運動の衰退は、「現在の民族主義諸政党間
tion of Abul Kalam Azad, "Documents of History of Com-
(2) N. Roy, "India in Transition with collaboration-
(1) M. N. Roy, op. cit., p. 186.
(2) M. N. Roy, op. cit., p. 198.
(3) H. C. D. Cunningham, "The Partition of Asia, C.
83.
(2) A. B. Pearson, "India in Transition" 1964, p. 379.
(2) R. Parme Dutt, India Today, Calcutta, Second
(2) M. N. Roy, "The Political Situation in India," Inter-
ational Monthly, 1931, S. 892.
(2) Bulletin des III Kongress der Kommunistischen
Partei, pp. 176-177, 1934-1939, Complete edition. Strasbourg, Demon-